

今号のわだい

- [1面] 三重・山口
- [2面] 茨城・新潟・栃木
- [3面] 徳島・岐阜
- [4面] 愛知・吉田・長野

# 全厚労ニュース

全 国 労 働 組 合 連 合 会  
 厚生連  
 〒110-0013 東京都台東区入谷 1-9-5  
 TEL 03-3874-3591  
 FAX 03-3874-3593  
 発行日 毎月 20日  
 定 価 30円



たて干しに群がる三厚労組合員とその家族のみなさん



いまかいまかと待ちわびる子どもたち

## 私たちが二年間、 頑張ってきました

全厚労では、昨年始めて、8月に「各県の特徴的な取り組み」を掲載した特別号を発行しました。紙面で紹介できるのは、各県の活動の一部に過ぎませんが、今年も継続していくこととしました。これから労働組合の新年度が始まります。また1年一緒に頑張りましょう。(全厚労教宣部)

### 三重 3年ぶりに 組合員家族みんなで 楯干し&潮干狩り

三厚労では毎年職員のレクレーションとして「楯干し&潮干狩り」をしていきます。会からも援助を受け、組合員だけでなく病院

## 山厚労 9連休制度で 通信リフレッシュしました!

5月1日から8日までの8日間、9連休制度を利用してリフレッシュ休暇をとりました。取得にあたってはかなりの勇気が必要でしたが、師長さんをはじめ、スタッフの皆さんに支えていただき、最高にリフレッシュできる時間を過ごすことが出来ました。

「長く休むと仕事に行きたくなくなる」という声をよく耳にしますが、実際に休んでみるとリフレッシュでき、エネルギーが満ちて元気になり仕事が好きになります!

次は私が他のスタッフのリフレッシュ休暇を支える番です。

山厚労周東支部  
看護師 中里弘美



家族旅行を楽しんだ中里さん家族

に働く人とその家族は誰でも参加できる形になっています。ここ3年、台風や新型インフルエンザの影響もあり行っていませんでしたが、今年は久しぶりの開催で天候にも恵まれ、7月16日、津市御殿場海岸で、例年の1.5倍ほどの職員、家族を含め約700人の参加となりました。

午前中は子どもたちを対象にじゃんけんゲームを行いました。お目当ての商品を狙う子どもたちの一喜一憂した場面も見られました。

たて干し(本来はタモで



うわっ、お魚さんだあ〜♪

魚を捕るのですが手づかみにしている)は中学生以下の子ども限定で、囲いの網の中を逃げ惑うハマチや鯛、鱈、タコなどを大はしゃぎで追い掛け回していただきました。

場所を少し移して潮干狩りも行い、バケツいっぱい貝をとった方もいました。子ども連れの方も多数参加され、海辺の良いリフレッシュ

ユになり、良い家族サービスの機会になったのではないかと思います。

# 茨城 結成50周年を迎え、震災を経験し、「統一と団結」を実感

茨厚労は2010年で結成50周年を迎え、これまでの歴史を振り返り、一時金一律支給、加入組合員数の増、東日本大震災への対応など、「統一と団結」を実感する一年となりました。

時間外労働に対し「指導を徹底する」の回答があり、09年度の通知「時間外の適性化」「委員会・研修会は時間外」を再度、組合から病院長・職場長へ提出。時間外請求がしやすくなった職場もありますが、「始業前の勤務」は請求が出来ない



県のナースウェーブでも奮闘しました

「看護師手当を5,000円に」「看護師手当を5,000円に」の回答がありました。確保に対する「せめてもの

一時金は「3年連続で年間4・0カ月」を確保、夏は「一律2・0カ月」「6月15日支給」と17年続いた慣例に戻すことになりました。震災の影響で「支給されないのでは」「家の修繕の為に減額されたら困る」の声にも応える結果でした。ここ数年の一律支給のた

たかひの中で、専務から「格差はなくなった方がいいが、完全にはなくせなかつた」とのコメントがあり「一時金一律支給の意義」が一定伝わったといえます。昨年・昨年のストライキ

09年から4週7休（その後8休は2事業所と1部署）になり、10年から夏期休暇がリフレッシュ休暇として「年間5日」「希望者には連続休」となりましたが、人員不足のため希望しても連続しては取れない状況が多くあります。

そして3・11東日本大震災。ライフラインと通信が完全に止まり、連絡なしで救急車が何台も並び、外来には患者があふれ、入院患者の避難・転院、薬品・機材や食事の確保、昼夜問わず大きく揺れ続ける余震、何日も病院で寝泊りする大

勢の組合員、自ら被災しながらもDMATや他病院派遣など、協力して医療を支えました。原発事故と放射能の恐怖が続いていますが、職員・組合員が一丸となつて苦しい状況を乗り越えてきたこと、その状況下で新入職員を迎え、組合員に加入してもらい、2年連続の純増（18名）を達成したことは、まさに団結の力の賜物です。

## 栃木 地域医療の確保へ 住民とともに病院の存続・拡充をめざす

私たちは、厚生連事業の再構築のためには地域及びそこで暮らす住民の方々と連携をつくり、病院・地域が一体になった地域医療の確立が必要であると考えています。そのような考えの下に、昨年7月11日、新築移転問題を抱える下都賀総合病院のある栃木市にて、『住民とつくる地域医療を

考える集い』を探りのなか開催しました。集会には私たちの予想を上回り、2

00名を超す住民の方が参加してくれました。集会アンケートからは、医療に対する関心の高さと同時に栃木地域の医療充実を求め、声も多数よせられ、改めて責任の重さを感じるとともに、今後も住民の方々の連携を深め、ともに行動していくことが重要であると再認識させられました。

その後、集いに参加された方を中心に『医療従事者と地域住民』の懇談会を病

闘争を中心に一律支給の意義を訴え続けた組合員の頑張りがあったからこそです。休日の改善では、

## 新潟 働く者と地域医療を守るために、水原郷病院の公設民営化を受けて

2010年10月、新潟厚生連では水原郷病院（阿賀野市）の公設民営化がスタートしました。労働組合は、開院と同時に16番目の支部となる阿賀野支部を立ち上げました。

より良い労働環境をしつかり築いていくことは表裏一体です。水原郷病院の運営は、阿賀野市民にとって「厚生連にお願

「雇用と地域医療を守る」方針を掲げている新潟厚生連労働組では、厳しい医療環境の中でも県内全体を視野に入れ、医療再編に積極的に関わることで安定した医療提供ができるものと判断しています。医療の公共性を堅持して地域医療を守ること、5000人の組合員の雇用・結力で賃金・



2010年10月、定期大会で阿賀野支部結成を承認

## 雪の中でも 200名越える 地域住民の方が

当日は雪が降りしきる中にもかかわらず、第一回同様200名を超える住民の方が集まり、国保病院の撤

た住民の方々と、大型スーパーなどでの呼びかけビラを配布したり、市内の店舗にポスター掲示の依頼なども行いました。さらに病院所在地の自治会との懇談会も実施しました。

退から市立病院開設まで住民運動に関わってこられた奈良県生駒市の長島氏、栃木県南地域の医療状況を分祈された木高氏の講演のあと、「住民の会」を立ち上げることを宣言し、場内から大きな拍手を得られました。同時に約25名の住民の会世話人も決定し、今後の行動に向け世話人会を中心に話し合っていくことになりました。

その後、世話人会を数回に渡り重ねて、まずは会の存在を地域はもちろん自治体にも知らせていくべきであり、その後もっと大きな住民の会となるよう活動しようということになりました。



# 愛知 東海青年集會など 各種企画を通じて青年が成長

全厚労の青年集會「K's station」は、「仲間作り」「連帯感」を体で感じ、これからの労働組合活動に生かすことを目的に2年に1度開催されていきます。今年度は、その谷間の年度ということで、7月9～10日の2日間、蒲郡市にある「ホテル竹島」と幸田セントラルボウルにて全厚労東海ブロック青年集會を開催しました。

初日はボウリング大会を開催。親睦・連帯感の意味から各県の参加者をシャッフルしてチーム戦としました。初対面の方が多く最初はぎこちない雰囲気でしたが、そこは若者、あつとい

う間に溶け込み、終盤は大いに盛り上がりました。2日目は、職種別交流会を開催しました。後に講演会を予定していたため、1時間程度のみでしたが、同職種とすることも非常に盛り上がり、参加者から「もっと時間が欲しかった」等の感想を多くいただきました。青年集會の締めは、プロ野球選手として近鉄、中日にて活躍をされた野球

等が感想を多くいただきました。青年集會の締めは、プロ野球選手として近鉄、中日にて活躍をされた野球



ビンゴゲームで盛り上がる新人歓迎会

## ボクたちの将来が心配と青年部結成

7月15日に行った新人オリエンテーションの懇親会の中で、突然に若い組合員が立ち上がり「今の執行部がいなくなるとどうなるのか？将来が心配だ。でも、組合のことは良く分らないから先に楽しい事を企画して、少しずつ組合の事を覚えよう」と青年部結成の話がトントン拍子に決ま



頼もしい吉田病院労組青年部の仲間

りました。これからの活躍や成長が楽しみです。

ニークな野球選手として有名であったこともあり、期待通りの巧みなトークで会場は終始笑いの渦に包まれていました。笑いの中にも各所に若い人たちへのヒントが含まれていたように感じます。

静岡、岐阜、三重各県のご協力のおかげで大盛況にて終わることができました。来年度は、長野県にて「K's station」が開催されますので、多くの組合員を送りたいと考えています。

### 未来切り拓く 青年婦人部へ

愛厚労青年婦人部は、例年通り、4月の愛厚労新人職員歓迎オリエンテーションの企画・開催を軸に、全厚労東海ブロックが主催する2010年秋闘学習会、青年集會に参加しました。今年度は、愛厚労が東海ブロックの幹事であったこと



東海4県で参加者をシャッフル。すぐに仲良くなりました

もあり、企画の段階から青年婦人部も加わりました。各種行事に参加することによって、愛厚労組合員同士のふれあい・親睦を図りつつ、労働組合としての教育を主眼に活動を行いました。

混沌とする政治情勢の中、今必要なものは、「想像力」と「創造力」です。若い力が、未来を切り拓かねばなりません。その第一歩として私たち青年婦人部は、組合員相互の親睦を図る企画を考え、若い人たちの士気を高めていきたいと考えています。

愛厚労青年婦人部長

森下博文

## 長野 K's stationに 全国からの多くの参加を

### 青年部 常任委員会を 中心として活動

長厚労青年部は11支部から「常任委員」が複数で選

出され、定期大会での承認を得て「青年部常任委員会」(11年度32名)という役員会を確立して、月1回の会議を基本に活動してきました。

「拡大常任委員会」では

各支部の青年部長と役員を交えた合同会議を開催し、支部での活動経験の交流

と長厚労青年部企画の成功に向けた検討をおこないました。そして、長厚労青年部の最大企画である「ウインターフェスティバル」は、天候には恵まれませんでしたが、他県と全厚労本部か



ウインターフェスティバルで「AKB48とオタク」を披露した安曇支部

ら参加を含め133名の参加で成功しました。多様な企画と楽しい交流会で団結を深めました。

また、常任委員会や企画ごとに「学習会」をはじめ、「長厚労青年部ニュース」の発行「平和・環境新聞」などに取り組んできました。

今年の青年部定期大会では、長厚労初の女性青年部長が誕生し、みんなの先頭に立って頑張っています。

K's stationに 向けて青年部始動!

長厚労青年部は、全厚労青年委員会の思いを受けとめ、2011年度の「全厚労K's station」(青年交流集會)の開催を引き受けました。

そして、集會を成功させるため「現地実行委員会」を立ち上げ、「長野らしさを盛り込んだ、参加者の絆を深められる」提案ができます。特に、福厚労、茨厚労の仲間と震災からの復興を支援している全国の仲間の交流の場として成功させたいと決意しています。大勢の方の参加を楽しみにしています。